



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月10日

東

上場会社名 株式会社GENOVA

上場取引所

コード番号 9341

URL <https://genova.co.jp>

代表者(役職名) 代表取締役社長

(氏名) 平瀬 智樹

問合せ先責任者(役職名) 取締役執行役員

(氏名) 武田 幸治 (TEL) 03 (5766) 1820

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家および個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	3,057	64.7	△222	—	△213	—	249	—
2026年3月期第1四半期	1,855	△26.9	△174	—	△172	—	△98	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 246百万円(—%) 2026年3月期第1四半期 △98百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	14.40	14.40
2026年3月期第1四半期	△5.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	11,309	6,154	53.6
2026年3月期	10,255	6,898	61.6

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 6,065百万円 2026年3月期 6,322百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	0.00	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	21,604	86.8	1,573	293.0	1,557	260.1	1,190	332.5
								68.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1 社 (社名) 有限会社アカサカ歯材社、除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2027年3月期1Q	17,838,100株	2026年3月期	17,837,600株
2027年3月期1Q	500,068株	2026年3月期	500,068株
2027年3月期1Q	17,337,735株	2026年3月期1Q	17,308,378株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで判断したものであり、リスクや不確定な要素等の要因が含まれており、実際の成果や業績等は記載の見通しとは異なる可能性がございます。なお、上記業績予想に関する事項は、【添付資料】4 ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2026年8月10日(月)に機関投資家および個人投資家向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載およびTDnetに開示する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(企業結合等関係)	12
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善や物価高対策をはじめとする各種政策の効果に支えられ、景気は緩やかな回復基調で推移致しました。

一方で、物価上昇に伴う家計への負担が懸念されるほか、中東情勢の緊迫化および米国の通商政策の動向など依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような経済環境の下、当社グループは「ヒトと医療をつないで健康な社会を創る」をミッションに掲げ、最適な医療情報の提供やクリニックの業務効率化などに取り組んで参りました。

当社グループの主力事業であるメディカルプラットフォーム事業においては、信頼性の高い医療情報を提供する日本最大級のヘルスケアプラットフォーム「Medical DOC」において、引き続き専門医監修の医療記事やクリニック検索・紹介、医院紹介などのタイアップ記事が好評を博し、当第1四半期は直近の四半期と比較してPV数が増加致しました。

「Medical DOC」は、医師や医療アドバイザーが監修する信頼性の高い記事を配信しており、重度の疾患に関する情報も多く含まれております。そのため、当社の医療関連記事がChatGPTを含む生成AIに参照されるケースが増加していること、制作コンテンツの強化など、今後もこの好循環が継続するものと考えております。

また、スマートクリニック事業におきましても、主力ソリューションは引き続き医療機関から高い評価を受けております。具体的には、自動受付精算機の「NOMOCaシリーズ」や株式会社未来トレンド研究機構が実施した「「チャットボット（クリニック業界向け）」に関する市場調査」において3部門でNo. 1となった「NOMOCa AI chat」などが挙げられます。

さらに、AI電話自動応答サービス「NOMOCa AI call」もサービス開始からPDCA（計画・実行・評価・改善）のサイクルを回すことで品質は飛躍的に向上しました。現在は患者様からのお問い合わせ（診療時間や休診日など）に対して対話型AIが、人に近い聞き取りやすく抑揚のある音声で対応できるようになっております。

これにより、新たに導入するクリニックも増加しており、電話対応業務にかかる時間やコストの削減、医療スタッフの業務効率化を実感いただいております。同時に患者様の利便性向上とサービスレベルの改善にも寄与し、満足度の向上に繋がるサービスとなっております。

加えて2025年7月1日に当社グループに参画した株式会社ASAN0では「歯科医療の今と未来を繋ぐ」をミッションに掲げ、歯科医療用機器・器材・材料・薬品等の開発・販売及び歯科医院用クラウドサービスの開発・販売の事業を主に行っております。

当社グループとして同社における事業を推進するにあたり、最適なサプライチェーンの構築とグループのマーケティング・DX領域との連携により、医療現場の課題解決と新たな価値創出への貢献を目指しております。なお、同社が従前、民事再生手続を申請していた経緯から当第1四半期連結累計期間においても、引き続き主要取引先との取引再開に向けた取り組みに注力しております。人的資本経営の重要性が一層高まるなか、新たな子会社のグループインも含め、営業人員一人当たりの生産性も向上しており、親子会社間においても営業とサービスの連携強化を図っております。これらの取り組みを通じて、当社グループの主力事業のオーガニックな成長を牽引するとともに、非連続的な成長を実現するため、新事業・新サービスに向けた事業提携についても引き続き検討を進めております。

なお、有限会社アカサカ歯材社については、2026年6月30日をみなし取得日として連結の範囲に含めており、当第1四半期連結累計期間においては、貸借対照表のみを連結財務諸表に含めております。業績については第2四半期連結会計期間より連結損益計算書に含める予定です。

セグメントごとの経営成績を示すと、以下のとおりです。

当社グループの報告セグメントは「メディカルプラットフォーム事業」、「スマートクリニック事業」、「歯科流通事業」、「DX事業」、「その他」の5つとしておりましたが、グループシナジーの最大化および経営資源の最適配分を図るため、当第1四半期連結会計期間の期首より経営管理の区分を見直し、「DX事業」を「スマートクリニック事業」に統合いたしました。これにより、「メディカルプラットフォーム事業」、「スマートクリニック事業」、「歯科流通事業」、「その他」の4区分となっております。

なお、以下のセグメント別の経営成績（前年同期比）につきましては、「スマートクリニック事業」は変更後の

セグメント区分に組み替えた数値で比較を行っておりますが、「歯科流通事業」は前第1四半期連結累計期間において存在しないため、前年同期との比較は記載しておりません。

① メディカルプラットフォーム事業

当事業では、超高齢化社会を迎えた現代の日本において健康寿命増進という社会課題を解決すべく、利用者の皆様により一層適切な情報へアクセスいただくことを目的としております。引き続き、日本最大級のヘルスケアプラットフォーム「Medical DOC」を中心に、医療機関と患者様への適切な医療情報のマッチングを実現しております。

「Medical DOC」は、月間PV数が前連結会計年度の下半期では横ばい圏で推移しておりましたが、4月から6月の3カ月平均では2,184万超となっており、直近1月から3月の3カ月平均のPV数と比べ増加となりました。

「Medical DOC」は、医師や医療アドバイザーが監修している信頼性の高い記事を配信しております。これらの記事は、検索エンジンのアルゴリズムに適合しているだけでなく生成AIの参照元としても利用されるケースが増加しており、PVの増加はもちろんのこと、プラットフォームとしての価値も着実に向上しております。このような背景から、当社の主力サービスである医療機関の紹介記事やそれに付帯するサービスの反響も大きく、当第1四半期連結累計期間において契約件数は1,289件となりました。

今までの新たな取り組みも含め、セグメント売上高は1,140,892千円(前年同四半期比7.3%増)、セグメント利益は279,305千円(前年同四半期比2.4%減)となりました。

② スマートクリニック事業

当事業は、主にクリニックの業務効率化を推進し、医療人材不足への対応、不要な医療事務業務の削減、患者様の待ち時間短縮を目指したサービス開発を進めております。

当事業におきましては、前連結会計年度より医療DXの推進による「ヒトからAIへのタスクシフト」に注力し、医療スタッフの業務負担軽減と患者様のさらなる利便性向上に取り組んでおります。受付業務の省力化を目的とする「NOMOCa AI chat」と、電話対応を完全自動化する「NOMOCa AI call」による「Chat」と「Call」の両輪体制により、クリニックにおいて特に負担の大きい「電話業務」にかかる時間とコストの削減を推進しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、これらAI関連サービスについて現場ニーズを捉えた継続的な機能改善を図りつつ、既存顧客を中心とした導入提案を強化し、新たな主力サービスとして順調に推移しております。

また、当第1四半期連結会計期間より、従来の「DX事業」を当セグメントに統合いたしました。これは、両事業が提供するソリューションの本質や目的が同一であったことから、組織およびサービスを一本化することで、経営資源の最適配分とより効率的な事業運営を図るためのものであります。

これらの事業基盤の強化を踏まえ、2026年7月からは新たに「待たない、通いやすいクリニックを創る」というビジョンを掲げ、事業展開をさらに加速させております。今後も医療機関における事務業務の肥大化という課題の解決に向けて、引き続き邁進してまいります。

この結果、セグメント売上高は975,323千円(前年同四半期比43.7%増)、セグメント利益は202,152千円(前年同四半期比297.4%増)となりました。

③ 歯科流通事業

当事業は、当社子会社である株式会社ASANOが「歯科医療の今と未来を繋ぐ」というビジョンのもと、卸売業を成長エンジンの一つに据え、収益性と持続成長性の両立を進めております。

卸売業では、海外先進メーカーと国内大手とのアライアンスを一段と深化させ、歯科用CT、口腔内スキャナー、AI画像診断といったデジタル診断、3DプリンターやCAD/CAM、治療用レーザー等の精密治療機器、予防・メンテナンス機器まで高付加価値領域を拡充し、医院の診断精度・治療効率・患者様の負担軽減の同時実現に貢献しております。単なる機器納入に留まらず、デジタル導入に伴うワークフロー再設計、スタッフ研修、保守・校正を含む長期契約、ファイナンス提案、開業支援をパッケージ化し、網羅的なソリューションを提供しております。これにより初期負担を抑えつつ投資回収を明確化し、消耗材・保守を含む継続収益を強化することで、製品ミックスの高付加価値化と在庫回転の改善を同時に進めております。

また、仕入価格・物流費の変動には複線調達と価格最適化で対応し、為替リスクと供給網の不確実性を抑制しております。加えて、アフターメンテナンスの即応体制を再構築し、稼働率向上と顧客満足の向上がクロスセル・リピートに寄与しております。

グループ間のシナジーの創出につきましては、当社のマーケティングオートメーションとインサイドセールスを活用し、見込み顧客の質と量の改善を図っております。案件化から受注、保守契約・クラウドサービス契約への展開までパイプライン管理を高度化し、顧客獲得コスト（CAC）の早期回収に繋げております。今後もアライアンス拡大、価格・在庫の精緻運営、プロダクト・サービスの連携強化により、現場で選ばれる提案力と安定したキャッシュ・フローを確立し、中長期の成長機会を的確に捉えてまいります。

この結果、セグメント売上高は824,494千円、セグメント損失は69,705千円となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は3,057,042千円（前年同四半期比64.7%増）となり、営業損失は222,235千円（前年同四半期は営業損失174,544千円）、経常損失は213,604千円（前年同四半期は経常損失172,591千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は249,820千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失98,261千円）及びEBITDA（営業利益＋減価償却費及び償却費（のれん償却費含む）＋長期前払費用償却）は△175,471千円（前年同四半期は△134,565千円）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ1,053,984千円増加し、11,309,852千円となりました。これは主に売掛金が515,203千円増加したこと、のれんが362,486千円増加したことによるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,798,176千円増加し、5,155,450千円となりました。これは主に長期借入金が768,364千円増加したこと、買掛金が565,612千円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ744,191千円減少し、6,154,402千円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益249,820千円を計上した一方、新株予約権が488,091千円減少したこと、剰余金の配当で503,813千円減少したことにより、利益剰余金が減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年5月13日付の2026年3月期決算短信で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,317,442	5,080,336
売掛金	1,856,335	2,371,539
その他	512,581	715,952
貸倒引当金	△35,510	△23,770
流動資産合計	7,650,849	8,144,058
固定資産		
有形固定資産	447,119	468,764
無形固定資産		
のれん	1,031,470	1,393,957
その他	18,097	31,815
無形固定資産合計	1,049,568	1,425,773
投資その他の資産		
繰延税金資産	625,904	594,938
その他	482,426	676,317
投資その他の資産合計	1,108,330	1,271,255
固定資産合計	2,605,017	3,165,794
資産合計	10,255,867	11,309,852

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	492,039	1,057,651
短期借入金	—	180,000
1年内返済予定の長期借入金	117,720	203,436
契約負債	359,222	426,445
未払法人税等	1,080	12,807
前受収益	258,029	244,898
賞与引当金	30,467	59,098
その他	792,230	903,536
流動負債合計	2,050,789	3,087,872
固定負債		
長期借入金	617,990	1,386,354
退職給付に係る負債	118,614	141,582
長期前受収益	503,411	448,175
その他	66,468	91,466
固定負債合計	1,306,484	2,067,577
負債合計	3,357,273	5,155,450
純資産の部		
株主資本		
資本金	779,201	779,695
資本剰余金	679,201	679,695
利益剰余金	5,500,793	5,246,799
自己株式	△640,758	△640,758
株主資本合計	6,318,437	6,065,433
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	3,568	472
その他の包括利益累計額合計	3,568	472
新株予約権	576,588	88,496
純資産合計	6,898,593	6,154,402
負債純資産合計	10,255,867	11,309,852

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	1,855,748	3,057,042
売上原価	611,255	1,525,409
売上総利益	1,244,492	1,531,632
販売費及び一般管理費	1,419,036	1,753,868
営業損失(△)	△174,544	△222,235
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	9	618
解約金収入	1,068	7,240
受取手数料	986	4,232
その他	87	897
営業外収益合計	2,151	12,989
営業外費用		
支払利息	29	4,339
為替差損	169	—
その他	0	18
営業外費用合計	198	4,357
経常損失(△)	△172,591	△213,604
特別利益		
固定資産売却益	2,329	469
新株予約権戻入益	—	497,319
特別利益合計	2,329	497,789
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△170,262	284,185
法人税、住民税及び事業税	2,797	3,398
法人税等調整額	△74,798	30,966
法人税等合計	△72,001	34,364
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△98,261	249,820
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△98,261	249,820

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△98,261	249,820
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△430	△3,095
その他の包括利益合計	△430	△3,095
四半期包括利益	△98,691	246,725
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△98,691	246,725

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結会計期間より、有限会社アカサカ歯材社の全持分を取得して連結子会社化したため、連結の範囲に含めております。なお、2026年4月21日が株式取得日であり、かつ当社と被取得企業の四半期連結決算日の差異が3か月を超えないことから、当第1四半期連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2, 3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディカルプ ラットフォー ム事業	スマート クリニック 事業	歯科 流通 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,062,834	678,758	—	1,741,592	114,155	1,855,748	—	1,855,748
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,062,834	678,758	—	1,741,592	114,155	1,855,748	—	1,855,748
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	286,041	50,865	—	336,907	16,179	353,086	△527,630	△174,544

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、WEB制作・保守事業、コンサルティング事業等を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△527,630千円は、報告セグメントに配分していない全社共通費用であります。
3. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2, 3)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディカルプ ラットフォー ム事業	スマート クリニック 事業	歯科 流通 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,140,892	975,323	824,494	2,940,710	116,332	3,057,042	—	3,057,042
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,140,892	975,323	824,494	2,940,710	116,332	3,057,042	—	3,057,042
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	279,305	202,152	△69,705	411,753	18,163	429,916	△652,152	△222,235

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、WEB制作・保守事業、コンサルティング事業等を含んでおります。
2. セグメント損失の調整額△652,152千円は報告セグメントに配分していない全社共通費用、歯科流通業及びスマートクリニック事業に係るのれんの償却額19,461千円が含まれております。
3. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社グループの報告セグメントはグループシナジーの最大化および経営資源の最適配分を図るため、当第1四半期連結会計期間の期首より経営管理の区分を見直し、「DX事業」を「スマートクリニック事業」に統合いたしました。これにより、「メディカルプラットフォーム事業」、「スマートクリニック事業」、「歯科流通事業」、「その他」の4区分にセグメント変更しましたので、変更後のセグメントに基づいて記載しています。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「歯科流通」セグメントにおいて、有限会社アカサカ歯材社の株式を取得し、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めたことにより、のれんが381,948千円増加しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は、2026年4月1日開催の取締役会において、有限会社アカサカ歯材社の全持分を取得して連結子会社化することを決議しました。また、2026年4月21日付で全持分を取得したことにより連結子会社化しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 有限会社アカサカ歯材社

事業の内容 歯科材料の販売

(2) 企業結合を行った主な理由

当社は「ヒトと医療をつないで健康な社会を創る」をミッションに掲げて21世紀型の医療インフラ構築を推進しており、2026年7月からは新たに「待たない、通いやすいクリニックを創る」というビジョンを掲げ、事業展開を加速させております。

当社グループは、2025年7月より株式会社ASANO（以下「ASANO」）を軸とした歯科流通事業を開始いたしました。ASANOは長年にわたり歯科医療の現場へ器械・器材・材料を届けてきた、まさに「物流という医療インフラ」の基盤を担う存在です。当社はこのリアルな物流網に、グループの強みであるマーケティング・DX領域を融合させることで、医療現場の課題解決と新たな価値創出を推進しております。

今般、当社が持分を取得することを決定したアカサカ歯材社は、主に歯科技工士の方々を対象とした歯材卸業を提供する会社です。同社は長年の歳月を経て築き上げた顧客への深い関与とリレーションシップを強みとし、地域の歯科医療において欠かせないパートナーとなっております。

本件により、ASANOが持つ広範な歯科流通ネットワークと、アカサカ歯材社が持つ技工領域への専門的な物流網が統合されます。これにより、歯科医院から歯科技工所までを網羅する強固なサプライチェーンを構築し、「物流」という側面から日本の歯科医療インフラをより安定的に、かつ効率的に支える体制が整うものと考えております。

アカサカ歯材社を当社グループに迎え入れることにより、歯科流通事業だけでなく、その他の事業とのシナジー効果も期待されることで、さらなる事業基盤を拡大できるものと判断しており、経営の効率化を図ることが可能となるものと考えております。

(3) 企業結合日

2026年4月21日（みなし取得日2026年6月30日）

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得することによるものであります。

2. 四半期連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2026年6月30日をみなし取得日としており、貸借対照表のみ連結しているため、四半期連結損益計算書に被取得企業の業績を含んでおりません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	600,000千円
取得原価		600,000千円

4. 主要な取得関連費用の内容および金額

アドバイザー費用等	14,380千円
-----------	----------

5. 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

381,948千円

なお、上記の金額は、当四半期連結会計期間末においては、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額です。

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力です。

(3) 償却方法及び償却期間

効果の発現する期間にわたって均等償却する予定であります。また、償却期間については、現時点では確定しておりません。

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	1,197,808千円
固定資産	183,085千円
資産合計	1,380,893千円
流動負債	833,907千円
固定負債	328,934千円
負債合計	1,162,842千円

(企業結合に係る暫定的な会計処理の確定)

2025年7月1日に行われた株式会社ASANOの事業譲渡について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第1四半期連結会計期間に確定しております。

なお、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しはありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	17,966千円	15,782千円
のれん償却額	一千円	19,461千円